

平成30年度 事業 報 告

I 公益目的事業に関する事項

平成30年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した（別添参考1）。

- ① 小澤健二研究員 「2000年代のアメリカ農業に関する一考察（2）
－2000年代の農業構造の変容と農場類型を中心に－」
- ② 八木宏典研究員 「21世紀の水田農業－変貌・将来像・課題
－わが国の水田農業をめぐる諸問題（完）－」
- ③ 坪田邦夫研究員 「農業の外国人材受入れの課題（1）」
- ④ 両角和夫研究員 「農業金融の新たな融資手法としてのABLの活用と課題」
- ⑤ 田家邦明研究員 「「新たな森林管理システム」と森林政策上の意義」
- ⑥ 小川増弘研究員 「自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究（6）」

(2) 研究会方式による研究

5テーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、研究を行った。

① 今日の農業問題に対応した農協のあり方に関する研究会

主査 両角和夫研究員

平成26年度から標記テーマについて調査研究を行っており、平成30年度については、研究会を2回開催した。

② わが国水田農業のこれからあり方に関する研究会

主査 八木宏典研究員

平成27年度から標記テーマについての研究会を実施してきたが、その研究成果を報告書にとりまとめ、平成30年8月に「21世紀水田農業の変貌と課題」（日本農業研究シリーズNo. 24）を刊行した。

③ 米政策の見直しに関する研究会

主査 小澤健二研究員

平成27年度から標記テーマについての研究会を実施したが、その研究成果を報告書にとりまとめ、平成30年6月に「米政策の見直しに関する研究」（日本農業研究シリーズNo. 23）を刊行した。

④ アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、平成30年度については、研究会を2回開催した。

⑤ 地域農業事情に関する研究会

主査 田家邦明

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、主査による現地調査のほか、研究会を1回開催した。

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、平成30年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産業学部准教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤卓氏（公益財団法人日本離島センター調査研究部）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「宮城県の水田地帯の震災復興－仙台東部の七郷地区の事例一」、山浦陽一氏「中山間地域の水田農業の多様な担い手－定点観測1－2」、小澤卓氏「八丈島の農業と振興政策に関する分析」）を『農業研究』に掲載した（別添参考1）。

（4）実験農場における調査研究

農場において、専任職員と研究員を置き、飼料生産部門と家畜飼養部門を併営し、粗飼料について可能な限り自給することを目指した繁殖経営を行っている。その内容・成績及び実践を通じて飼料生産面、家畜飼養面において明らかになった課題や講じた改善策について、農家に対する参考情報として『農業研究』に掲載するとともに、生産した育成牛を茨城県内の市場に出荷することにより、地域における素牛資源の供給に貢献した（別添参考2）。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、前国際穀物理事会事務局長北原悦男氏他3氏を招き、講演会を開催し、参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考1）。

平成30年度講演会

第1回（平成30年5月18日開催）

講師：北原悦男氏

「世界の穀物需給の主たる動きと勤務の経験－国際穀物理事会での12年間」

第2回（平成30年6月19日開催）

講師：保坂一八氏

「耕作放棄地対策と地域農業活性化に向けて－グリーンファーム清里の取り組み－」

第3回（平成30年8月24日開催）

講師：金井久美子氏

「若者育ては村育て一線のふるさと協力隊ー」

第4回（平成30年9月12日開催）

講師：佐藤 豪氏

「北海道水稻の良食味品種育成とその戦略ー「赤毛」から「ゆめぴりか」までー」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に対し、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。平成30年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。この成果は、平成31年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

- ① 小林那奈子 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程
「農業における家業継承に関する実証的研究
－女性の継承プロセスおよび事業展開に着目して－」
- ② 高尾 美鈴 中央大学大学院経済学研究科博士前期課程
「グリーン・ツーリズムが消費者の環境配慮行動に与える影響について」
- ③ 御手洗悠紀 京都大学大学院農学研究科博士後期課程
「イギリス有機農業史－「インドール農法」に着目して－」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

第28回（平成29年度）日本農業研究所賞3名の受賞者に対する授賞式を、平成30年5月9日に開催した。なお、受賞者は、次のとおりである。

受賞者

(五十音順) 研究業績の題名

岩崎和巳：農業用水路系の水理設計法に関する研究

岩元睦夫：食品の流通技術の改善・開発及び体系化に関する流通工学的研究

中村保典：イネ澱粉生合成過程の解明及び成果の農業への活用

II 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋及び農地を、公益法人等8団体に貸し付けた。

III 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

平成30年度の評議員及び役員等は、平成31年3月31日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

岩堀修一 (筑波大学名誉教授)
大杉立 (東京農業大学客員教授)
春見隆文 ((一財)日本醤油技術センター理事長)
菊地敦子 ((一財)公務人材開発協会代表理事)
古在豊樹 (千葉大学名誉教授)
佐藤洋平 (東京大学名誉教授)
生源寺眞一 (福島大学農学系教育研究組織設置準備室教授)
染英昭 ((一社)全国農業改良普及支援協会会长)
西尾道徳 (元筑波大学教授)
濱口義曠 ((一社)農山漁村文化協会理事)
藤巻宏 (農業・食品産業技術総合研究機構フェロー)
松川正 (元畜産試験場長)
三輪睿太郎 (元日本農学会会長)

計13名

(2) 理事及び監事

理事長 田家邦明
常務理事 川勝哲
理事 市田知子 (明治大学農学部教授)
小澤健二 ((公財)日本農業研究所研究員)
岸康彦 (元(公財)日本農業研究所研究員)
鈴木昭憲 (東京大学名誉教授)
竹内克伸 (弁護士)
南波利昭 ((公社)畜産技術協会会长)
西尾健 (法政大学名誉教授)
松本聰 (東京大学名誉教授)
八木宏典 ((公財)日本農業研究所研究員)

計11名

監事

高濱正博 (元食品産業中央協議会常任理事)
吉國隆 ((一財)大日本蚕糸会顧問)

計2名

(3) 顧問

顧問 服部信司

2 評議員会及び理事会等

平成30年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第1回」 平成30年6月15日（金）

出席者11名（評議員総数13名）

付議され承認された議案

- ① 平成29年度決算書類に関する件
- ② 理事及び監事の選任に関する件

その他報告事項

- ① 平成29年度事業報告に関する件（平成30年5月29日理事会決定）
- ② その他

「第2回」 平成31年3月22日（金）

出席者13名（評議員総数13名）

付議され承認された議案

- ① 平成31年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② その他

(2) 理事会

「第1回」 平成30年5月29日（火）

出席者12名（理事総数12名）

付議され承認された議案

- ① 平成29年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② その他

「第2回」 平成30年6月15日（金）

出席者10名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 理事長及び常務理事の選定に関する件
- ② その他

「第3回」 平成31年3月12日（火）

出席者11名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 平成31年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ その他

(3) 監事監査

平成30年5月11日（金）

出席者2名（監事総数2名）

付議され承認された議案

平成29年度事業報告及び決算書類に関する件

3 職 員

平成31年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部	研究員 7名、総務部長 1名、参事 1名、嘱託職員 1名	計 10名
実験農場	研究員 1名、副場長 1名、主任技師 1名、主事補 1名	計 4名

4 図 書

平成30年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

平成30年度収書数

区分	雑誌等		単行書(冊)			備考
	和	洋	和	洋	計	
購入 受贈	141 306	- -	141 306	18 5	3 -	21 5
計	447	-	447	23	3	26

蔵書数

区分	数量	備考
単行書前年度までの累計数	21,873 冊	
平成30年度廃棄数	▲ 75 冊	
平成30年度登録数	26 冊	
単行書計	21,824 冊	内新刊書 26冊

(注) 資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別添

(参考1) 平成30年度における主要調査研究成果

*『農業研究』(日本農業研究所研究報告第31号)、平成30年12月、B5、373頁

目次内容

- ・第28回(平成29年度)日本農業研究所賞の選考経過報告(西尾敏彦)
- ・2000年代のアメリカ農業に関する一考察(2)
 - －2000年代の農業構造の変容と農場類型を中心に－(小澤健二)
- ・21世紀の水田農業－変貌・将来像・課題
 - －わが国の水田農業をめぐる諸問題(完)(八木宏典)
- ・農業の外国人材受入れの課題(1)(坪田邦夫)
- ・農業金融の新たな融資手法としてのABLの活用と課題(両角和夫)
- ・「新たな森林管理システム」と森林政策上の意義(田家邦明)
- ・自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究(6)(小川増弘、吉沢哲)
- ・宮城県の水田地帯の震災復興－仙台東部の七郷地区の事例－(森田明)
- ・中山間地域の水田農業の多様な担い手－定点観測1－2(山浦陽一)
- ・八丈島の農業と振興政策に関する分析(小澤卓)

(特別寄稿)

- ・「農学ハ舌耕ニアラザルナリ」斎藤萬吉の農村行脚
 - ～ある農業研究者の生きざま～(西尾敏彦)

(平成29年度人文・社会科学系若手研究者助成事業 研究成果)

- ・農外企業と集落営農組織との補完関係に関する分析
 - －水田農業の生産過程に着目した事例研究－(古田恒平)

*『農業研究』(別冊)第6号、平成30年12月、B5、200頁

平成30年度日本農業研究所講演会記録

目次内容(敬称略、講演会開催順)

世界の穀物需給の主たる動きと勤務の経験－国際穀物理事会での12年間

(講師 北原 悅男)
(解題 坪田 邦夫)

耕作放棄地対策と地域農業活性化に向けて－グリーンファーム清里の取り組み－

(講師 保坂 一八)
(解題 小澤 健二)

若者育ては村育て－緑のふるさと協力隊－

(講師 金井久美子)
(解題 田家 邦明)

北海道水稻の良食味品種育成とその戦略－「赤毛」から「ゆめぴりか」まで－

(講師 佐藤 豪)
(解題 両角 和夫)

(参考2) 実験農場の和牛飼養頭数と牧草の作付面積及び生産量

1 和牛飼養頭数

(単位: 頭)

区分	期首	増 加		減 少		期末	備 考
		生 産	繰 入	出 荷	繰 出		
繁殖牛	52		2	4		50	
育成牛	40	47		47	2	36	
合 計	92	47	2	51	2	86	

注: 区分は以下のとおり

1. 繁殖牛: 経産牛及び月齢が14ヶ月齢以上の繁殖もと牛
2. 育成牛: 上記1以外の子牛

2 牧草の作付面積及び生産量

(単位: a、トン/10a、トン)

利用区分	草 種	作付面積	单 収	総収量	備 考	ペール個数
放牧地	オーチャードグラス、他	630	-	-		
採草地	オーチャードグラス、他	390	3.7	142.4		356
	イタリアンライグラス	325	2.5	80.4	新播	201
	リードカナリーグラス	95	3.2	30.4		76
合 計		1,440				633